

平成26年度【前期】学校評価

学校名(西京高等学校附属中学校)

1 平成26年度 重点評価項目

(1) 中高一貫教育による学力向上の取り組み、(2) 社会人力を育成するキャリア教育の推進、(3) 効果的・効率的な学校運営

2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					自己評価		学校関係者評価		
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	評価日	平成26年9月25日	評価日	平成26年10月17日	
					評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 (学校評議員)	
1 確かな学力	学習意欲を高める授業の工夫	・日常的な授業公開 ・授業研鑽週間	・保護者アンケート ・生徒による学習アンケート調査	・保護者アンケートでは86%が成果を認めている。 ・授業研鑽週間に於いて中高相互の参観が定着。	⇒	・ペネッセ学力推移調査では、各学年とも経年変化において順調に推移。ただし、全学年とも平日の家庭学習時間において、教科による差が見受けられるとともに、予習に要する時間が少ない。 ・授業研鑽週間での教員による参観数に差が見られる。	・家庭学習の習慣化(特に平日の予・復習)を図るため、家庭学習の課題設定(質・量ともに)において教師間での調整をおこなう。 ・授業研鑽週間での参観数について一定の基準を設けるとともに、若年教員の研究授業を積極的におこなう。	⇒	・ペネッセ学力推移調査から、各学年とも順調に成果をあげていることが分かり喜ばしいことだ。家庭学習において、予習に要する時間が少ないので、課題の出し方に改善すべき点があるのではないか。教科ごとではなく、全校的な共通理解が必要だと考える。
	サテライト学習(補充学習)の充実	・定期的なサテライト学習 ・サマーサテライトの実施	・教職員ヒアリング ・保護者アンケート	・サマーサテライトには対象生徒のほぼ全員が参加。 ・定期的な放課後サテライト学習は時間確保が課題との指摘がある。		⇒	・授業研鑽週間での教員による参観数に差が見られる。	⇒	・授業研鑽週間での参観数について一定の基準を設けるとともに、若年教員の研究授業を積極的におこなう。
	家庭学習の習慣化と充実	・学年単位での計画的な家庭学習 ・確認テストの実施	・ペネッセ学習実態調査アンケート	・家庭学習の時間は確保できているが約9割が復習中心。 ・1年生での家庭学習記録の取り組みが定着。		⇒	・家庭学習の習慣化(特に平日の予・復習)を図るため、家庭学習の課題設定(質・量ともに)において教師間での調整をおこなう。 ・授業研鑽週間での参観数について一定の基準を設けるとともに、若年教員の研究授業を積極的におこなう。	⇒	・授業研鑽週間での参観数を増やし、若年教員の研究授業を積極的におこなうには、教職員の意識向上が必要だ。そのため必要な研修機会を充実させる上で、適切な講師の紹介などの情報提供をおこなっていく。
2 豊かな心	人権意識の向上	・系統的人権教育全体計画の実施 ・人権教育学習の充実	・教職員研修振り返り ・保護者アンケート	・全学年での人権学習の系統的な指導計画策定や、全校道德を実施。 ・保護者アンケートでは76%が成果を認めている。	⇒	・全校道德や学年道德の実施など、系統的な内容での取り組みをおこなえている。 ・係から計画の提案や教材の提供がおこなわれている反面、個々の教員が教材研究をおこなう機会が少なく工夫が必要。 ・規範意識を涵養し、自尊感情を高める集団づくりが課題。	・各種アンケートに関する研修を計画し、分析結果を活かした生徒指導を推進、教職員の理解を深める。 ・生徒達の学びがキャリア発達における気づきに繋がるよう、道徳・特活での行動実践をともなったプログラムを立案する。	⇒	・全校道德や学年道德など、これまでにない新たな取り組みを実施していることは大変評価できる。 ・生徒達の学びがキャリア発達における気づきに繋がるよう、道徳・特活での行動実践をともなったプログラムを立案する。
	進路展望の拡大	・企業や大学訪問を含めた計画的なキャリア教育 ・EP-A学習の充実	・中高一貫推進会議 ・全国学力学習状況調査の分析	・チャレンジ事前学習の2年企業訪問では、受け入れ先から良好な評価をいただいた。 ・生徒の振り返りも意欲的な内容。		⇒	⇒	⇒	・EP-Aやさまざまな体験活動を通じて、生徒達のキャリア発達を促すプログラムは今後も充実させて欲しい。そのプランニングの過程で、企業や外部のステークホルダーからの支援を受けやすくするための紹介や繋ぎを、今後とも積極的におこなう。
	豊かな心の育成	・系統的な福祉体験学習 ・生徒会を中心とした取り組み	・生徒の振り返り ・全国学力学習状況調査の分析	・各学年での道徳教育が充実。生徒の振り返りでも成果がうかがえる。 ・夏季リーダー研修会での取り組み		⇒	⇒	⇒	・生徒達の学びがキャリア発達における気づきに繋がるよう、道徳・特活での行動実践をともなったプログラムを立案する。
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	・健康観察カードを活用した基本的生活習慣の確立	・健康観察カード ・養護教諭、スクールカウンセラーとの連携	・朝食はほぼ全員が摂れている。 ・就寝時間が深夜零時を過ぎる生徒が散見される。	⇒	・生徒指導委員会等でスクールカウンセラー等と連携をさらに進めるとともに、不調生徒の支援が課題。 ・継続的に実施している朝の「健康観察カード」を生徒の心身の健康状態の把握に活用。	・不調生徒への対応について、担任を中心に家庭と十分に連携し学年や養護教諭、児童相談所等が協力して指導体制を充実させていく。 ・健康観察カードの内容・点検方法等の見直し。	⇒	・「健康観察カード」は大変よい生徒理解の指標だ。今後、改善して継続利用して欲しい。また、スクールカウンセラー等との連携をさらに充実させ、不調生徒の支援を推進して欲しい。
	自己管理能力の育成	・健康観察カードを活用した教育相談	・全国学力学習状況調査の分析 ・ペネッセ学習実態調査アンケート	・3年生では9%が毎日同じ時間に起床している。 ・同様に3年生の75%が一日に視聴しているTV等が2時間に満たない。		⇒	⇒	⇒	・不登校、不調生徒への対応において、児童相談所等の外部機関に対して協力を求める際に生じた課題について、一般的な見地から助言をおこなう。
	中高一貫教育の推進	・中高一貫教育推進会議の実施 ・中高合同研究会活動	・中高合同研修会 ・定期的な中高合同教科会	・今夏の中高合同研修会において、合同教科会を開催。 ・定期開催の中高一貫推進会議において情報を共有。		⇒	・学校説明会等で、本校独自の取り組み、教育目標についての理解を促すことが課題。 ・中高一貫教育推進委員会を中心、「育てたい生徒像」を共有できた。 ・学校HPでは、本校独自の教育活動を伝えることに腐心し、一定の効果を収めている。	・保護者による学校評価アンケートや、生徒による学習アンケート(授業評価)などの分析結果を各分掌で分析、課題を共有する。 ・学年便りや学級通信を充実させ、保護者に対しての情報提供に努めるとともに、学校へ来ていただく機会を増やす。	⇒
4 独自の取組	学校説明会・オープンキャンパス	・学校説明会 ・オープンキャンパス	・教職員ヒアリング ・保護者アンケート	・保護者アンケートにおいて93%の満足を得られた。 ・説明会の内容について教職員で振り返り、改善点を共有。	⇒	⇒	⇒	⇒	・学年便りや学級通信をさらに充実させ、保護者に対しての情報提供をふやすために、保護者による学校評価アンケートや、生徒による学習アンケート(授業評価)などの分析結果について、学校関係者として教職員に対して、適切な提言をおこなう。
	情報発信の充実	・学校HPを用いた情報発信の充実 ・各種案内の配布	・保護者アンケート ・学校HPのアクセス数	・HPへの毎日の平均アクセスは366で全校生徒数を上回る。 ・HPは原則毎日更新		⇒	⇒	⇒	⇒